

脱原発・自然エネルギー

をすすめる苫小牧の会 ニュース

2016年11月30日(水) 第40号
 発行責任者；浦田 操
 事務所；苫小牧市末広町 1-13-13
 苫小牧地区労働組合総連合(地区労連)内
 TEL；0144-33-3285 FAX；33-3286
 メール；tomakomaitikurouren@gmail.plala.or.jp

原発再稼働STOP！ どうする核のゴミ！ 11月26・27 原発問題全国連絡センター全国交流集会在岩手

今年度原発問題住民運動全国連絡センター主催の全国交流集会在11月27日岩手盛岡市で開かれました。北海道から原発問題全道連絡会代表委員の米谷氏、地域から三氏、本会から事務局長の津田が参加しました。以下その報告です。なお、前日の26日は再生可能エネルギーの取組で近年とみに名高い葛巻町の現地見学会でした。その報告は2面。

集会是予定通り10時半に始まり、総勢約240名。最初は来賓挨拶、衆院議員高橋千鶴子(共産党)、参院議員木戸口英司(自由党)、憲法共同センター代表岸本啓介の各氏。三人はそれぞれの立場から、現在の安倍政権が世界の流れと世論に逆行していること、原発再稼働の道を行って、国民をあらゆる面で困難に陥れていること、その阻止のために国民が政治的に包囲する必要



左から岸本、高橋、城戸口各氏

があることを説きました。



全国交流集会在岩手

基調報告はセンター筆頭代表の伊東達也氏でした。最初に福島原発事故以来の情勢について数字を挙げて詳細に報告。政府は被害者対策事故収束を進めないまま原発再稼働や輸出に暴走していること

とが具体的に語られました。第二は、岩手県が高レベル放射性廃棄物の最終処分場の候補に挙げられていること、報告。処分場の希望地が出ないことから、岩手北上山地海岸部・根室東部海岸・福島阿武隈山地北部海岸のうちの有望地として今年度中に公表する見通しであること、原発環境整備機構(NUMO)が各地で説明会を開いていること。更に、チェルノブイリ原発事故30年目に四度目の現地調査を行ったと報告。ウクライナ・ベラルーシ・ロシアでは国の責任が明確に法に謳われている点で我が国と大きな違いがあることを強調しました。最後に、原発・核燃からの

撤退の合意形成に向けて、これまでの到達点と自分の意見を持つことの確認、電力会社の責任の明確化、衆議院選挙での争点化、請願署名運動の成功などを訴えました。特別報告は二本。鹿児島薩摩川内市議の井上氏が三反園知事誕生の苦労話を報告しました。県労連などが推薦していた知事候補を下ろして三反園に一本化するためには大変な紆余曲折があったと言うことでした。福井県敦賀市の山本氏は全ての反原発団体が全力で署名運動や裁判闘争に頑張っている様子を報告。大飯高浜をはじめ原発だらけの福井県での健闘ぶりでした。新潟柏崎市の持田議員は米山新潟県知事選挙と柏崎市長選の報告。知事選は公示直前の立候補であったが原発反対という争点を明確化する中で県民の利益と結びついたということ、原子力ムラの激しい反撃攻勢があったこと、残念ながら市長選では力及ばなかったことと報告されました。

記念講演は「高レベル放射性廃棄物最終処分を巡る日本学術会議の『回答』と『提言』について」と題して東京工業大学名誉教授今田高俊氏でした。日本学術会議は10年9月に原子力委員長から高レベル放射性廃棄物最終処分に関する審議依頼を受け、それに対して12年9月に高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策の抜本的見直し、暫定保管と総量管理の政策枠組み、負担の公平性等六つの提言からなる「高レベル放射性廃棄物の処分について」
<http://www.sej.go.jp/ja/info/kohyo/opdf/kohyo-22-k159-1.pdf> を手渡しましたがそれらについての解説的内容でした。また15年4月には「高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言―国民的合意形成に向けた暫定保管」
<http://www.sej.go.jp/ja/info/kohyo/opdf/kohyo-23-k212-1.pdf> を提出しました。日本学術会議の『回答』と『提言』に従えば、原発再稼働は取りあえず保留すべきですが、政府はご存じの通りこの価値ある提言を無視し、再稼働に暴走しています



全国交流集会在岩手

と日米安保条約との関連について述べました。短い時間でしたが各地の様々な取組みに学ぶこと多い集会でした。来年の開催予定は福井県です。



全国交流集会在岩手

つクツマを忘れない 3. 11
 2017年 苫小牧集会 開場 13:00
 2017年3月11日(土) 13:15~ 15:30 資料代 300円
 苫小牧市民会館 3F 小ホール
 DVD 上映；「奪われた村 避難5年目の飯舘村村民」(約60分)
 講演；福島原発告訴団事務局長 地協美利氏「7年目の福島」

原発連全国交流集會現地見学会報告



すが、それが今や全国から驚くことに毎年50万人を超える見学会客が訪れます。一体どういう取組みなのか気になりますね。

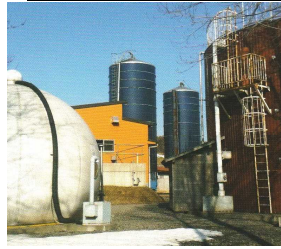
99年に町長に就任したN氏は町の現況を打開する

1面に書いたように前日26日は再生可能エネルギー、クリーンエネルギーの取組で有名な葛巻(くずまき)町の現地見学、以下その報告です。

町を挙げて取り組む葛巻町のクリーンエネルギー見聞記

なし、ゴルフ場なし、温泉なしのナイナイ尽くしだったそうで

右写真で分かるように葛巻町は岩手北部、盛岡市からバスで一時間半ほどの町。酪農と林業が基幹産業、人口六八〇〇人、二八〇〇世帯、面積四三万五千㎡、牛は一萬三五〇〇頭で、人より牛の方が多く、東北一の酪農の町を目指しています。



さらに、家畜排泄物を利用した畜糞バイオマスガスシステムを導入しました。温室効果ガスであ

た畜糞バイオマスガスを導入しました。温室効果ガスであ

るメタンを利用することによってやや小規模ながら37割の電気と180

MJの熱、飼料を生産して「循環サイクル」を目指しています。

また、間伐材を利用した木質バイオマスガス発電設備を備えて



います。現在のところは実証試験に留まっ

ていますが、将来的には地球温暖化防止にも連動するビジネスモデルを目指しているそうです。

そのほかに、やはり林業の副産物であるペレットストーブを六つの小中学校に備えたり、地熱・太陽光・太陽熱を組み合わせたゼロエネルギー住宅に取り組んだり、エネルギー自給の町作りを目指しているというところで、次から次と意欲的に取り組んだとのことだ

N氏が経営するくずまき高原牧場は全国から仔牛を預かる「牛の保育園」で、その収入も馬鹿にならない、なかなかの経営手腕です

夕食交流会はその牧場のホールで、全国各地の団体や個人が登壇して自己紹介、高橋衆院議員も参加して楽しいひとときでした。お土産は勿論高原牧場ワインです。

NUMO(原子力発電環境整備機構)地層処分意見交換会ツグッチがっきらぼう報告



11月23日は祝日であったが、札幌のホテルロイトンに出かけた。NUMOが「高レベル放射性廃棄物の最終処分についての説明と意見交換会」を開くと言うから。そもそもNUMOと言うのが誤魔化しだな。というのはNUMOの正式名は英語でNuclear Waste Management Organization of Japan なのだからNWMOのはずだ。そして日本語名も「原子力廃棄物処分機構」とすべきなのだ。全滅を玉砕と美化したのと同じ手法だな(笑)。それはともかくNUMO側の説明は、予想していたとは言え完全失望だ。全部ホームページに書いてある。初めに地層処分ありきで、そこから一步も動こうとしない。日本学術会議の正式な提言(このニュース1面参照)を完全に無視。高レベル放射性廃棄物だけではない、もんじゅの廃炉もはぼ決定し、六ヶ所村再処理工場建設もままならぬ状況で核燃サイクルは破綻している。48万トもあるプルトニウムをどうするのかというオレの質問にも、プルトニウムは国策として核燃サイクルで再利用して云々とバカの一つ覚えだ。要はアリバイ作りだ。態々出掛けたオレもバカ見たようで疲れたぜい。

安非法制違憲訴訟の原告になりませんか

安非法制は憲法違反の戦争法です。絶対に平和は守られなければなりません。今、日本各地で違憲訴訟を起す準備がすすめられています。北海道では来年一月16日

弁護士の高崎暢氏が呼びかけ人となつて提訴の予定です。原告も公募中です。高崎事務所迄至急ご連絡下さい!

電話 011-261-7738
FAX: 011-261-7718